

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1090300409		
法人名	医療法人 山育会		
事業所名	グループホームサンシャインことひら		
所在地	群馬県桐生市琴平町4-6		
自己評価作成日	令和5年1月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.sanikukai.com/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	令和5年2月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・天気の良い日は散歩に出掛け、下肢筋力の低下を防ぎ、転倒予防を心掛けている。 ・近隣の方と挨拶を交わし、花や果物を頂いたり、ホームで採れた野菜などを届けたり「交流をしている。 ・利用者個々の能力や、得意な事を活かし、食事の準備、食器拭き、洗濯たたみ等を行って頂き、役割を持ち、生きがいになる様なケアを実践している。 ・ホームの理念のもと、利用者それぞれの尊厳を大切に考え、居心地の良い居場所となるよう、利用者様の気持ちや思い図ったケアをしている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>身体拘束をしないケアを実践するために、法人内の研修員(職員)が主催する研修会に各施設の職員が交代で参加をして、その後、施設のミーティングで他の職員に伝達講習を行っている。管理者は日頃から職員の変化を観察して、ストレスが仕事の妨げにならないよう、早めの発見・対応を心掛け、問題発生を未然に防ぐよう努めている。食事は、利用者が楽しむことができるように、陶器の食器を使用し、週2回は利用者の希望を聞いて、リクエスト献立を考え食材の買出しをするなど、利用者と一緒に調理や片付けを行う機会を作っている。また、職員が長く働きやすい職場環境に向けて、職員の意見集約の経営労働協議会や労働組合の設置がなされ、日頃から職員の意見をもとに、物品の購入や休暇取得体制づくりなど各種意見が反映され、法人全体で働きやすい職場作りに取り組んでいる。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関や事業所に理念が掲示しており、利用者と職員、職員間で問題が発生した時は、理念を振り返り、事業所の方向性を見直している。	開設当初に作った理念で、職員の入職時に説明している。日頃の問題発生等には、理念に振り返る機会として活用している。理念に立ち戻ることで、職員間はもとより、利用者と職員の間関係を円滑にするためのツールとして、理念を位置付けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の為、地域の催しなどが減っているが、毎日の散歩で地域の方と挨拶を交わし、コミュニケーションをとっている。近所の方から庭の果物を頂き、施設の野菜を届け、交流している。	毎日の散歩時や収穫物の交換等を通じて、地域の方々と交流を図っている。コロナ禍で地域の行事は減っているが、今後、神社のお祭りに行ったり、公民館の作品展の見学をしたり、再開したいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	いつでも見学を受け入れており、地域の方が見学で来所された時などは、施設内の利用者様の様子を見て頂いている。質問等には職員が説明している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルスの感染拡大防止の為、令和2年3月より現在に至るまで、会議は開催されていない。2ヶ月に1度、利用者サービスや、取組等を町会長、民生委員に意見を頂き、市に報告している。	コロナ禍で、運営推進会議は、開催されていない。そのため、管理者が、事業所の運営状況報告書を町会長や民生委員等に届けて、直接意見を聞いている。その意見を職員ミーティングで報告し、運営に役立てるよう話し合っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険の手続きや、市のアンケートに協力している。施設の現状を報告し、問題点を相談し、必要な助言指導等を得、協力関係を築いている。	介護保険手続きや認定調査実施時に、市職員に利用者の状況等を説明するとともに、コロナウイルス感染対策や運営の問題点など、幅広く相談し協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティング時に、身体拘束の研修を行い、身体的な禁止行為など理解している。職員間で話し合い、ケアに取り組んでいる。	法人内の研修で「身体拘束をしないケア」について実施され、受講した職員がミーティングで伝達するなど、話し合う機会を設けている。管理者は、職員と利用者との問題発生を未然に防ぐ気配りを日頃から心掛け、サービス向上に繋げている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴時や、トイレ時にアザなどがないか、普段と違う様子がないか、確認している。研修会に参加し学ぶ機会がある。管理者は日頃から、利用者様と職員でトラブルなどないか気を配っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前、キーパーソンの方に成年後見人制度の事について、質問を受け説明をした事があるが、現在成年後見制度を利用する利用者様が少ない為、実際に学ぶ機会がない。研修に参加出来る様にしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設見学時に家族の不安や質問等を聞き、説明し、契約時に重要事項説明書、運営規定の説明を行い、再度疑問点など確認し、理解、納得して頂いてから、契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話などで、家族の意見や要望を聞き、利用者や外部に反映できるようにしている。	コロナ禍、利用者と家族の面会等の機会づくりのため、玄関や屋外でできるよう支援している。その時には、利用者の日々の状況等を伝えるとともに、事業所への理解をしてもらえるよう努めている。	施設運営は職員だけで担うものではないので、家族に施設運営に対してより理解していただくために、具体的な内容で意見や協力依頼を投げかけ、運営に反映できるよう話し合うことを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	青葉会という労働組合があり、年に3回経営労務協議会が開催され、役員代表が職員の意見や、要望を聞き、法人代表と話し合い、反映させている。	年3回開催される経営労働協議会で職員の意見が集約され、管理者が職員の意見をもとに、労働組合(青葉会)の開催時、法人代表と話し合う機会が持たれ、意見反映ができています。その結果、備品購入、子育て中の職員の時間休暇やリフレッシュ休暇の取得につないでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	コロナ禍で職員不足もあり、有給やリフレッシュ休暇が取れないこともあるが、職員が疲弊しない様、交代で休暇をとっている。法人でメンタルケアのチェックを実施し、担当が相談受入れを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍で法人内の研修は、書面よって行うことが多いが、研修が実行される時はなるべく参加出来るような勤務を調整している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で、他の施設の研修受け入れや、訪問が出来ず、同業者と交流する機会が減っている。10月にGH大会に参加し、交流を深め、施設でのサービスの質の向上に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学や入所時に、本人と面接を行い、困っている事、不安な事、要望を聞き入れている。入所後も不安にならない様、こまめに声掛けを行い、本人から発言しやすいよう気を配っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人や家族に施設の見学をして頂き、要望や心配事、困っている事を聞き、初期の段階で良い関係作りが出来る様心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期の段階で本人が何が出来なくて困っていて、何の援助が必要なのか、本人や家族がその時に望んでいる支援は何かを見極め、サービス利用に取り入れている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個人を尊重し、本人の出来る力を活用し、手伝ってほしい所を援助している。利用者の得意としている事は教えて頂き、互いに助け合って暮らせるような関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話で利用者様の様子を伝え、意見交換や家族の要望を伺い、共に支えられるよう支援している。毎月便りを個々に発行し、日頃の様子や外出時の様子を知らせている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で直接面会が出来ず、ガラス越し面会になったり、利用者様と買い物などにいけなく、交流と関係性が減ってしまったが、電話などで関係性が途切れない様支援している。	コロナ禍でも利用者が家族や友人との面会や、手紙・電話等での交流が継続できるよう支援している。また、利用者が通い難れている床屋や美容院が利用できるよう支援することで、馴染みの関係継続と安心して暮らせる生活作りに繋げている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日生活する中で、利用者様同士が互いに支え合い助け合えるようレクリエーション、外出、食器拭きや洗濯物たたみなど、一緒に楽しむ機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了者の家族が来設された時は、本人の様子を伺っている。入院された利用者様には、お見舞いに行く事が出来ないが、家族の相談にのっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活のパターンは個々に違うが無理に強引せず、希望や意見を聞き、思いに寄り添いその人らしさを尊重している。	利用者のできる力を発揮することを前提にして、利用者の話を聞くことや、生活歴を確認しながら希望や意向の実現に努め、アセスメント票に記載をして職員間で周知を図り支援している。意思表示できない方は、家族に伺いながらその人の意向を模索し、ケアに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に生活歴、生活環境暮らし方、これまでのサービス利用の経過などを本人、家族、担当ケアマネなどから聞き、アセスメントを行い、職員全員が把握出来る様になっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様1人1人の心身の状態に合わせたケアを実施している個人記録やケア表申し送り等で、職員間で情報を共有し、現状の把握に努めている。その時の状況で、臨機応変に対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様1人1人に担当職員がいる。本人、家族、訪問看護、訪問歯科の助言も参考にミーティング時、職員間でカンファレンスを行い、ケアプランを作成し毎月モニタリングを行い、ケアに繋げている。	法人内の複数の施設を兼任しているケアマネジャーが介護計画書を作成している。毎日職員が時系列にケアの記録を取っている。担当職員が毎月モニタリング・評価を行い、介護計画の見直しのカンファレンスが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1人1人の個人記録の最初の所に、ケアプランがあり記録時に常にプランを振り返ることが出来、職員間で共有する事が出来る。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態変化によって、訪問看護、医療機関への受診、往診などその時々ニーズに合ったサービスを選択して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で地域の催し物が減っているが、今年は地域の公園で花火があり、利用者様は楽しむことが出来た。町内の資源回収に参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、御家族の意向でかかりつけ医の希望がある時は、受診、往診の支援を行っている。馴染みの医師との関係を継続して頂き、安心してホームで暮らせるよう支援している。	かかりつけ医の選択は、利用者・家族の意向を尊重して、適切な医療が受けられるよう、職員が付添い等の支援を行なっている。また、事業所と契約している訪問看護サービスでは毎週月曜日は健康チェックを実施し、健康相談に乗ってもらい、安心出来る医療関係を構築している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護に毎週定期的に訪問してもらい、利用者様の状態を伝え、相談し適切な受診が出来る様支援している。急変時は昼夜問わず、協力してもらうよう契約を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時に病院関係者に看護サマリーや診療情報を送り、電話でも情報交換や相談をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医、訪問看護、他医療機関との連携を取り、出来るだけ本人、家族の希望に添った方針を立てていく。	重度化した時は、家族・かかりつけ医と相談して対応を決めている。家族の意向を尊重して、医師・訪問看護師・職員のチームで連携を図りながら支援を行なっている。現在は、看取りの対象者いない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修で訓練はあるが、コロナ禍の為今年度はまだ実施されていない。施設内にマニュアルやAEDがある。急変等の対応を実際に経験した職員が少なく、すべての職員が身につけているわけではない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、春と秋に防火訓練を行っている。自身、水害時の訓練も行い、水害時は地域の総合福祉快感が避難所になっており、避難訓練を実施し、市に報告している。	コロナ禍で、独自訓練となり、事業所単独で春には夜間想定、秋には昼間想定の花災避難訓練を実施している。また、9月には水害発生時に避難場所である総合福祉会館までの避難訓練を実施して、その報告を市に行っている。	地域の災害対策を再確認して、避難行動等、地域の方々の協力を依頼していざという時に活かせる体制を作って備えておくことを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人の利用者様に対し、プライドを傷つけない様、人格を尊重した声掛けや対応をしている。浴室のドアがフロアーに面している為、中が見えない様の暖簾や椅子の向きに配慮している。	利用者を社会人として働き上げてきた人として尊び、赤ちゃん言葉を使わないことやトイレ内での介助でも嫌な気持ちにさせない支援に努めている。また、浴室内が見えないような工夫を行うことで、羞恥心に配慮したケアに取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	散歩に行くとき、お手伝いを依頼する時、レクリエーションや体操、入浴、日常生活すべてにおいて、声掛けを行い、自己決定して頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様個々のペースに合わせ、居室で過ごしたり、フロアーで他の利用者様と過ごしたりして頂いている。散歩、外出などの声掛けは行うが、強制していない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容に定期的に来てもらい、利用者様にカットや染などの希望を聞いている。入浴時着替え等を一緒に用意し、自分の着たい服を選んで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	週2回手作り昼食を行っている。野菜切りや食事の準備、1日3回の食器拭きなど、利用者様が楽しみながら行えるよう支援している。	利用者も野菜を切る等、調理することから関われる支援を行なっている。週2回は、利用者が食べたいメニューを献立・食材調達・調理と、食事を楽しめる支援に取り組んでいる。あえて破損を厭わず、陶器の食器を利用して、料理が美味しく味わえるように支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	常時ポットに入れてあり、利用者様が飲みたい時に提供している。主食、副食とも、本人の状態や習慣に合わせて、形状を変えて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず口腔内のチェックを行い、職員が仕上げをしている。月1回歯科衛生士による訪問があり、口腔指導を受け、問題点の相談を行い、支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来るだけオムツ使用は行わず、トイレでの排泄を実施出来る様、個々にあった排泄パターンを理解し、トイレで排泄が出来る様支援している。	トイレで自立で排泄ができるよう、排泄チェック記録を参考にしたり、もよおすサインを見逃さないようしたりして、トイレ誘導を行っている。また、おむつやパットを効率的に使うことを心掛けることで、人としての尊厳重視と職員の負担軽減に繋がる取り組みに努力している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	定期的に便秘薬を内服している利用者様もいるが、便秘気味の方はヨーグルトを提供したり、散歩や足上げ運動で体を動かし、自然排便出来る様心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人が入浴を嫌がった時は、無理強いせず、時間をずらして声掛けを行ったり、日を改めている。安全でリラックスした時間を過ごせるよう、普段聞けない事などをゆっくり話しながらコミュニケーションをとっている。	週に4日の入浴日を設け、基本的に1人週2回の入浴を実施している。脱衣から入浴まで職員との1対1の時間となり、普段発語が少ない方も本音を話せる機会になっている。また、肌の乾燥を防ぐために入浴剤の使用や入浴後はクリームの塗布を行い、有意義な時間の経過を工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時の健康状態や、生活習慣に応じて自由に居室で休憩している。本人の希望に合わせ、室温や明るさなどを調整し、安眠して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は1人1人の服薬の内容を、薬情を見て把握し理解している。薬が変更になった時は、申し送りノートに記入し、情報を共有している。変更後の症状を共有し主治医や家族に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の好きな事、やりたい事を見極めお手伝いをして頂き、週2回の手作り昼食や誕生会では、食べたいメニューを聞き、提供している。月に1回訪問販売で好きなお菓子を購入している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の散歩を心掛け、本人の希望に添って周辺や、施設の庭を歩いている。花や紅葉の季節はドライブを兼ね出掛け、季節を感じたり、気分転換が出来る様支援している。	建物から屋外に出ることで気分転換が図れるよう、事業所の庭や近所を散歩することを実施している。また、花見が好きな方が多いので、交代でドライブに出掛ける支援も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の許可があり、本人がお金を使う事を理解出来る方は、おこずかい程度は所持している。施設内で金銭がなくなった等の問題が出る事もある為難しい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の携帯電話を所持している方がいるが、充電を忘れたり、しまい込んでしまう事があるので、預かって充電していつでも使用して頂いている。本人が家族に電話したい時は、施設の電話を使用して頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下、トイレには手すりがついており、自立しトイレや居室に行けるようになっている。玄関、フロアーには利用者様と共同で作成した絵や、飾りつけをし季節の花を飾り、季節感を出している。	共用空間は、車いす移動もしやすい家具の配置を工夫している。また、陽当たりが良いので直射日光が当たり過ぎないようにすだれを活用し、壁面には、共同生活も楽しんでもらえるよう利用者共同の作品や、花を飾って季節感が味わえる支援を行なっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの席は、気の合う利用者同士になれる様配慮している。他の利用者様とコミュニケーションが上手く取れない利用者様は1人でテーブル席で過ごして頂き、職員と一緒に過ごすようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具、布団、TVなど持ち込みを事由にし、本人が自宅で過ごしていた時と同じ、馴染みの物や好みの物を使って頂き、居心地よく過ごせる様な工夫をしている。	入居前に使っていた家具を持ち込んで、居室で利用している。各担当職員と利用者で相談しながら、衣類の整理や家具の配置等の居室づくりを行っている。必要な時は家族に連絡をして協力依頼をし、その人らしく居心地よく過ごせる空間作りが工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関、廊下、浴室、トイレに手すりがついており、手すりにつかまり、自立して移動や動作が出来、安全に生活出来る様工夫している。本人の出来る事、解る事に着目し、見守りながらお手伝いをして頂いている。		